

## 梶川 克哉 (Katsuya KAJIKAWA)

学位：博士（文学）

略歴：名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本文化専攻 博士前期課程修了

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本文化専攻 博士後期課程満期退学

専門分野：日本語意味論、日本語教育

研究課題：日本語の複文表現、意味分析

### 【著書】

- ・「〈表面接着〉から広がる『かける』の多義」、プラシャント・パルデシ他編『多義動詞分析の新展開と日本語教育への応用』（開拓社、2019年11月）

### 【論文】

- ・『「逆接」と中心性』（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第14巻、2014年5月）
- ・『「目的」と「原因」を表す『～ために』の意味的共通性』（関西言語学会『KLS Proceedings』33、2013年6月）
- ・『「XはYでありながらZ」で示す主体属性との非親和性』（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第13巻、2013年5月）
- ・「複文表現の意味的カテゴリー — 『目的』『付帯状況』をめぐって —」（名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士論文、2012年9月）
- ・『「目的」を表す『～ために＋移動動詞』と『～に＋移動動詞』の比較』（関西言語学会『KLS Proceedings』32、2012年6月）
- ・『「～がてら』の意味分析』（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第10巻、2010年5月）
- ・「動詞『おす』の意味分析」（名古屋大学留学生センター『日本語・日本文化論集』第17号、2010年3月）
- ・『「働く』の意味分析』（名古屋大学国際言語文化研究科『言葉と文化』第11号、2010年3月）
- ・「現代日本語における『散歩』の意味分析」（名古屋大学留学生センター『日本語・日本文化論集』第16号、2009年3月）

### 【口頭発表その他】

- ・「メンタル・スペース理論に基づく『～ために』と『～ように』の考察」（日本認知言語学会第19回全国大会、於：静岡大学、2018年9月）
- ・「名古屋 SKY 日本語学校の取り組み」（ライセンスアカデミー研修会基調講演、2018年2月）
- ・「日本語学校の学生」（高田短期大学教員研修会、2017年2月）
- ・『「逆接」と中心性』（ワークショップ「百科事典の意味観の射程」日本認知言語学会第14回大会、

於：京都外 国語大学、2013 年 9 月)

- ・「属性カテゴリーの周的事例を示す『～ながら』」(日本語文法学会第 13 回大会、於：名古屋大学、2012 年 10 月)
- ・「『X は Y でありながら Z』で示す主体属性との非親和性」(日本認知言語学会第 13 回全国大会、於：大東文化 大学、2012 年 9 月)
- ・「認知言語学的カテゴリー観に基づく複文表現の意味解釈 —『～がてら』を例に —」(日本語教育国際研究大会、於：名古屋大学、2012 年 8 月)
- ・「『目的』と『原因』を表す『～ために』の意味的共通性」(関西言語学会第 37 回大会、於：甲南女子大学、2012 年 6 月)
- ・「『～ながら』で示される事態の構成要素的解釈 —『～つつ』との比較を通して —」(日本語文法学会第 12 回大会、於：東京外国語大学、2011 年 12 月)
- ・「『目的』を表す『～ために+移動動詞』と『～に+移動動詞』の比較」(関西言語学会第 36 回大会。於：大阪 府立大学、2011 年 6 月)
- ・「『～がてら』の意味分析」(日本認知言語学会第 10 回大会、於：京都大学、2009 年 9 月)
- ・「中国人学生とのかかわりを通じて」(愛知産業大学留学生別科特別講演、2006 年 10 月)

#### 【所属学会その他】

- ・国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」のプロジェクトメンバー (2018 年 4 月より現在に至る)
- ・日本語教育学会、日本語文法学会、日本認知言語学会 (2017 年度より大会実行委員)